

平成22年2月17日設置

東海市地域公共交通協議会

幹線系統

平成28年6月24日確保維持計画策定

フィーダー系統

平成28年6月24日確保維持計画策

## 1.協議会が目指す地域公共交通の姿

## 【地域特性】

本市は、愛知県の西部、知多半島の西北端に位置しており、西は伊勢湾に面し、北は名古屋市、東は大府市、東浦町、南は知多市に接している。本市から名古屋市の中心地区まで約15kmの距離であり、太田川駅より名古屋駅までは名鉄常滑線で約20分で行くことができる。大きさは東西8.06km、南北10.97km、面積43.43km<sup>2</sup>となっている。南北を通過する西知多産業道路によって、本市域は内陸部と臨海部に区分されており、内陸部は鉄道駅周辺や幹線道路沿道を中心に住宅地として開発されている。臨海部は愛知県の主要な工業地域である名古屋南部臨海工業地帯の一角として、中部圏最大の鉄鋼業の集積地となっている。

道路網では、東西に伊勢湾岸自動車道、南北に名古屋高速道路4号東海線、西知多産業道路は走る幹線道路ネットワークの結節点となっている。鉄道は、名鉄常滑線と名鉄河和線が南北方向に通っており、市内に8つの駅がある。このうち市内で最も乗降客数の多い太田川駅は名鉄常滑線・河和線の分岐駅であり、特急が停車するなど主要な公共交通の結節点となっている。また、本市は中部国際空港から20km圏内にあり、国際産業ハブ港を目指す名古屋港の港湾区域であるなど、陸・海・空の交通の要衝といえる地域である。さらに、平成39年の開業を目指して整備が進められているリニア中央新幹線が開業すると、品川までおよそ1時間で行くことができるようになる。

## 【東海市地域公共交通網形成計画の目標及び期間】

- ・基本方針1 いろんな交通機関がなかよくつながる公共交通づくり
  - 目標1 地域の骨格を形成する公共交通の構築
  - 目標2 だれもが利用しやすい交通環境の構築
  - 目標3 公共交通間の連携強化
  - 目標4 まちづくりと連携した公共交通体系の構築
- ・基本方針2 みんなで使って、みんなで支える公共交通づくり
  - 目標5 環境や健康に配慮して、かしこく公共交通を使う
  - 目標6 地域で支える公共交通
- ・基本方針3 公共交通を使った活発な交流を促進する仕組みづくり
  - 目標7 公共交通を使った高齢者の外出促進
  - 目標8 公共交通を使った観光や買い物での交流人口の拡大
- ・計画の期間 平成28年度から平成35年度までの8年間

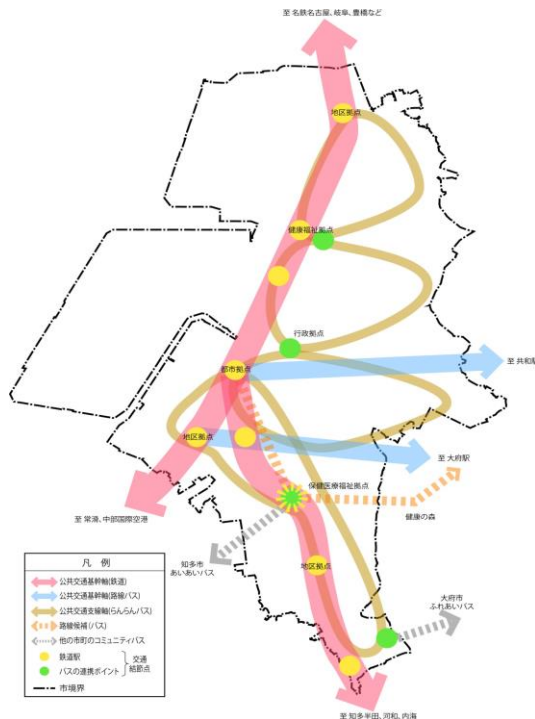


# 1.協議会が目指す地域公共交通の姿

## 【公共交通の将来像】

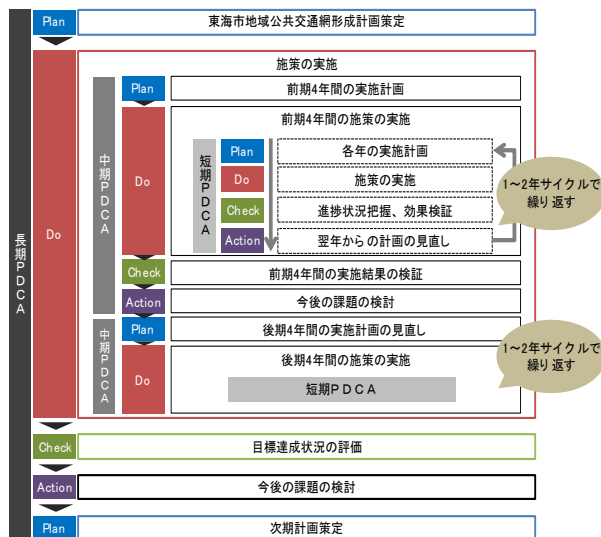
- 公共交通が市内のどこでも利用でき、複数の路線や交通機関にまたがって利用するときにも、ストレスを感じることなく、スムーズに利用できる。
- 老若男女、障害の有無に関わらず、だれもが不自由を感じることなく使いやすい公共交通網が形成されている。
- 交通事業者や市だけでなく、市民や企業も公共交通は自分たちのものであると認識し、改善や利用促進、維持・管理に積極的に参加しており、公共交通が持続可能な状態となっている。

## ■ 地域公共交通ネットワークイメージ図



# 2.計画の達成状況の評価に関する事項

- 公共交通網の評価は、計画の目標とする成果指標に基づき、目標値の達成度を評価・検証します。
- 計画の実施における継続的な改善のため、PDCAサイクル(計画→実行→検証→改善のくり返し)に従って達成状況の評価・検証を行い、目標値が達成できていない場合はその要因を分析し、対応策や改善策を実施します。
- 公共交通網の評価や検証及び改善策の検討は、東海市地域公共交通会議において実施し、施策に係るすべての関係者(市民、交通事業者、市など)が施策の検証結果や実施効果を共有します。
- 評価は、計画期間全体(長期)、前半・後半(中期)、1~2年ごと(短期)の3段階で分けます。
- 短期評価は、利用実績や収支など営業データから容易に取得可能な指標とします。
- 中期評価と長期評価(最終評価)は、市民の利用実態などアンケート調査やカウント調査により取得する指標によって評価します。



### 3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

#### 1)取組み経緯

##### 【地域内公共交通の概要】

- ・東海市内には、名古屋駅～中部国際空港を連絡する名鉄常滑線と、太田川駅～知多半島の南端を連絡する名鉄河和線により、南北の公共交通基幹軸を形成している。
- ・隣接する大府市～太田川駅・尾張横須賀駅を連絡する民間路線バス(上野台線・横須賀線)により、東西の公共交通基幹軸を形成している。
- ・循環バスは、市北部をカバーする北ルート(名和駅～太田川駅)、市中心部及び東部をカバーする中ルート(市役所を中心に半径約3km圏内の路線)、市南部をカバーする南ルート(太田川駅～知北平和公園)の3ルートにて運行している。

##### 【地域公共交通の課題】

- 1.すべての人にやさしい公共交通ネットワークの確立
- 2.公共交通間の連携の強化
- 3.まちづくりと整合した交通施策の展開
- 4.地域公共交通の維持に関する市民の協力
- 5.バス利用者を増やすためのサービスの向上形成する公共交通の構築

##### 【協議会の開催状況】

- ・平成28年度第1回東海市地域公共交通会議 (H28. 6. 24)  
主な議題…平成28年度事業計画案について  
東海市公共交通網形成計画の推進について
- ・平成28年度第2回東海市地域公共交通会議 (H28. 10. 21)  
主な議題…東海市内の一般路線バスのダイヤ改正に係る書面協議について  
東海市公共交通網形成計画の推進について
- ・平成28年度第3回東海市地域公共交通会議 (H28. 12. 16)  
主な議題…地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について  
東海市公共交通網形成計画の推進について
- ・平成28年度第4回東海市地域公共交通会議 (H29. 2. 17 予定)  
主な議題…平成29年度の予算について  
東海市公共交通網形成計画の推進について

#### 2)目標を達成するために行う事業・実施主体

##### 【各事業の着手時期・実施期間及び事業主体】

- |                            |                    |
|----------------------------|--------------------|
| ・東海市循環バス運行事業               | ・地域公共交通調査事業        |
| 補助対象事業…地域内フィーダー系統補助        | 補助対象事業…計画推進事業      |
| 実施期間…H28. 4～H29. 3         | 実施期間…H28. 4～H29. 3 |
| 事業主体…東海市・知多乗合株式会社          | 実施主体…東海市地域公共交通会議   |
| ・上屋・ベンチ等の設置に向けた調査          | ・循環バス車内への企業広告      |
| 非補助対象事業                    | 非補助対象事業            |
| 実施期間…H28. 4～H29. 3         | 実施期間…H28. 4～H29. 3 |
| 事業主体…東海市地域公共交通会議           | 事業主体…東海市地域公共交通会議   |
| ・高齢者の外出促進につながる循環バス運賃無料化の実施 |                    |
| 非補助対象事業                    |                    |
| 実施期間…H28. 4～H29. 3         |                    |
| 実施主体…東海市                   |                    |

## 4.具体的取組みに対する評価

### 【東海市循環バス運行事業に対する評価】

- ・平成28年度(H27. 10~H28. 9)の利用者数は355, 811人となり、前年度から42, 113人(11. 8%)の増加となった。月別利用者数も全ての月において前年度を上回っており、特に平成28年2月は前年度から5, 198人(18. 9%)の増加となった。平成27年5月の一部ルート及びダイヤ改定以降は利用者数が順調に増加しており、また、平成28年8月27日から実施された、75歳以上の市民と対象とした東海市循環バス無料化も増加の一因となっている。

### ○生活交通確保維持改善計画における地域公共交通確保維持事業の定量的な目標

- ・循環バスの利用者数  
平成27年度実績:337, 261人  
目標値 平成29年度:35. 0万人  
平成30年度:35. 5万人  
平成31年度:35. 5万人
- ・買い物、通勤、通学などの日常生活の移動がしやすい割合  
平成27年度実績:58. 9%  
目標値 平成29年度:57. 5%  
平成30年度:58. 0%  
平成31年度:58. 0%

### ○東海市地域公共交通網形成計画の目標とする成果指標

- ・循環バス利用者数  
目標値 平成30年度:35. 5万人  
平成35年度:36. 5万人

### 【地域公共交通調査事業に対する評価】

- ・路線バス及び循環バスの今後について、再編も含めた検討を行うため、現状把握及び需要調査を実施し、調査結果を分析した上で、今後の再編について検討し、一部の調査について調査委託契約を締結し、実施する。(H28. 12 委託調査実施予定)

### ・調査内容

#### 循環バスの調査

- ・循環バスのOD調査
- ・循環バス利用者への聞き取り調査
- ・循環バスの定時運行調査

#### 路線バスの調査

- ・路線バス横須賀線の利用実態調査
- ・路線バス上野台線の利用実態調査
- ・路線バス横須賀線の需要調査

#### 利用者へのアンケート調査

- ・高齢者への利用状況・需要調査 (H28. 8 実施済)
- ・高校生(横須賀高校・大府高校)への利用状況・需要調査

- ・この調査結果を元に、後述の上屋・ベンチ等の設置に向けた調査等、他の事業を推進していくものである。

### 【上屋・ベンチ等の設置に向けた調査に対する評価】

- ・75歳以上の市民を対象とした循環バス運賃無料化に伴い、バス停の利用状況に変化が生じているため、OD調査の結果を基に確認する。また、利用頻度が多いバス停に上屋・ベンチ等が設置可能であるか確認し、設置可能なバス停については、優先順位を設定する。
- ・利用頻度が高いバス停については、道路が設置基準を満たしているのか確認し、優先順位は、利用頻度、公共施設や商業施設の有無、乗継拠点等を確認した上で、公共交通会議で協議を行うものである。

### 【循環バス車内への企業広告に対する評価】

- ・3ルート6系統で運行している循環バスの車内の広告掲載欄を利用した企業広告の掲載を行い、広告料により循環バスの運行負担を緩和するものである。

## 4. 具体的取組みに対する評価

### 【高齢者の外出促進につながる循環バス運賃無料化の実施に対する評価】

- ・健康づくりにつながる高齢者の外出促進を図ることを目的とし、75歳以上の市民を対象とした循環バスの運賃を無料とする。
- ・平成28年8月27日から75歳以上の市民を対象とした循環バスの運賃無料化を実施し、平成28年9月の利用者は前年より2,658人(8.2%)増加している。
- ・地域公共交通調査事業で行う循環バスOD調査により、利用実態を調査する。
- ・事業の実施に合わせ、75歳以上の市民を対象とした運転免許自主返納推進事業の支援内容に、タクシー料金助成券(2,000円相当)を新設し、バス・タクシー双方の利用促進を図った。

## 5. 自己評価から得られた課題と対応方針

### 1 循環バスについて

平成28年度の利用者数は、355,811人となり、生活交通確保維持改善計画の平成28年度目標である33万人を大きく上回り、生活交通確保維持改善計画及び東海市地域公共交通網形成計画の平成30年度目標である35.5万人に達した。生活交通確保維持改善計画の指標としている、買い物、通勤、通学などの日常生活の移動がしやすい割合も増進しており、良好な推移が見られる。その一方で、時間帯や区間によっては利用者が多く、車内での転倒事故が懸念される等、新たな課題も出てきている。

### 2 地域幹線系統の維持・活性化、フィーダー路線としての役割

・地域幹線系統である民間路線バス横須賀線の利用者数が減少傾向となっていることから、引き続き利用促進策を展開し、計画推進事業を用いたOD調査等で利用状況を確認・分析していくとともに、長期的な展望として、持続可能な公共交通網の再編を見据えた市内全域のバス交通のあり方について検討を進めていく。

・名鉄尾張横須賀駅、太田川駅及び高横須賀駅について、乗降客数の合計は増加していることから、フィーダー路線として一定の役割を果たしていると考えられる。

・平成29年度の利用者数目標を38万人に再設定し、目標達成に向け利用促進を行っていく。

